

withコロナ時代を迎えて

齊藤 隆三

新年おめでとうございます。2020年はCOVID-19により社会生活の質の変革が迫られた1年でありました。人と人との接触を避けなければならない、社会生活を営む人間にとっては何かと不自由な世の中になったことでしょう。学会開催は延期、あるいはWeb開催になり、一堂に会して話し合うことができず、学会や研究会で友人たちと歓談することの楽しみが失われました。感染の拡大は全世界的にまだ続いており、この状態はワクチンの開発や治療法の確立がされるまでは落ち着いたことではありません。早く終息することを願っております。

withコロナ時代を迎えて、診療に研究にこれまでとは異なる対応が要求されるようになりました。オンライン診療が可能になったとしても、皮膚病変は実際に目でみて、触れてみないと微妙な違いを把握することができません。しかし、人と人が接する診療の場ではいっそうの感染に対する配慮が求められるようになりました。さらに、学会に参加する機会が失われ、耳学問ができにくくなってきており、情報源としてインターネットや書物を利用することが多くなることであります。雑誌離れがいわれている今日ですが、改めて雑誌の利点が見直されてきております。

その中で、本誌はrenewalして1年が過ぎました。誌面の大きさ、表紙のデザインなどの変更、新しい企画による内容の充実が図られてきておりますが、今後とも時代に即して内容を変えていくことになってまいります。基本は興味ある症例の掲載と学問的な話題の提供が中心になり、その方針には変わりはありません。引き続き症例報告を掲載していくことになってまいります。読者に臨床症状がわかるようなきれいな臨床写真と症例の問題点を含めて、内容のある論文を載せていきたい。そして、医療訴訟問題など医療を取り巻くさまざまな事柄なども取り上げてみておりますが、ときには日常診療でよくみられるありふれた疾患についての治療、生活指導、原因検索などの話題も提供してみたいと考えております。

読者の皆様にrenewalについてのさまざまなご意見を賜りました。ありがたく御礼申し上げます。大方の好評が得られ、2021年度もこの方針で進めてゆく予定ではありますが、引き続きご意見などいつでも「声」の欄を活用し、ご投稿ください。

皆様方にとりまして、コロナに負けないよき年となりますように、2021年もよろしくお願いいたします。